



地域福祉の中で育む『ふくし』の心

岩美町社会福祉協議会
総務福祉課主事 霜村 美奈世

「福祉教育」というとき、学校で行われる授業としての「福祉教育」ではなく、すべての地域住民を対象に『ふくし』を考えてもらうものと捉えています。そのため、社会福祉協議会で行っている事業もすべてが福祉教育の一端を担っていると考え、日々の業務に取り組んでいます。

例えば、令和6年度から取り組んでいる新たな居場所づくりとしての健康マージャンの取り組みでは、これまでサロン活動や体操等には出にくかった60代・70代の男性も多く参加されています。参加者の中から「そういえば、あの人も昼間家におるじゃないか」と声があがり、次の回には「声かけて連れてきたで」と誘い合って参加いただくという場面も少なくありません。集い、会話をすることで「地域には独居の家が増えてきとってなあ」など、地域に目を向けた会話も増えています。自分が参加するだけじゃなく、周りを気に掛ける気持ちが高まり、それが声をかけるという行動となり、つながりが生まれていく。講演や講座という形式だけが福祉教育ではないという所以がここにあり、こうした地域住民の意識啓発も重要と考えています。



また、サロン活動や老人クラブ、福祉団体等から依頼を受けて講師を担当することもあります。近年では、その進め方や話の内容についても意見をいただき、企画に参画いただくことに力を入れています。参加者の皆さんや担当者の意向を反映することで、テーマに沿った内容を社協職員で用意して提供するだけでは得られない、より充実した時間が創られていると感じています。「感想を言い合う時間も欲しい」「家に帰って振り返れるよう



なプリントがあるといい」。ひとつひとつの提案は小さいことでも、参加者を想い、工夫する温かな心が感じられるものばかりです。企画に参画いただくことで、活動終了後には、「次はこうしたらどうか」「もっとたくさんの人に参加してもらうにはどうしようか」といった声も聞かせていただくことが増えました。特別大きな準備をしているわけでもありませんが、『参加する』から1歩進め

て、『参画する』ことで新たな気づきも生まれ、継続的な意欲の向上につながっています。

令和7年3月に策定された第4次岩美町地域福祉活動計画において、「担い手づくり」、「居場所づくり」、「安心、安全な地域づくり」が重点項目となっており、これらの重点項目を推進していくために重要となるのが、自らが住む地域のことを知り、地域に存在する種々の問題について考え、住民同士で共有することと謳っています。地域住民の意識啓発、参画意識が欠かせない中において、気構えることなくちょっと参加して思ったことを口にできるきっかけを作り続けていきたいと思います。そして、見えてきた課題の解決に向けた取り組みにも協力をするとともに、地域住民のみなさんが主体的に活動できるようお力添えしていきます。